

埼玉アーツシアター通信

SAITAMA  
ARTS THEATER  
PRESS  
VOL.79

2019.2-3

いのうえひでのり

藤田貴大

コンドルズ

2019年度音楽ラインナップ

バッハ・コレギウム・ジャパン



6  
Tribute to 蜷川幸雄  
いのうえひでのり

メ  
チャ  
メ  
チャ  
影  
響  
受  
け  
て  
ま  
す



いのうえひでのり

1980年に劇団☆新感線を旗揚げして以来、日本有数の動員数を誇る人気劇団に。劇団公演以外でも「今ひとたびの修羅」、「鈍切り丸」、歌舞伎NEXT「阿弓流為」、「熱海殺人事件」などプロデュース公演の演出も多数手掛けている。今春、劇団39周年記念公演「偽義経冥界歌」ツアーがスタートする。

取材・文 ●  
上野紀子 (演劇ライター)

今、空間を操るダイナミズムで演劇の醍醐味を十分に味わせてくれる演出家といえば、この人だ。どこか亡き巨匠の豪胆さに似たものを感じさせるいのうえひでのりさんが、初めて蜷川舞台を生で観た時に思ったことは……、「シェイクスピアって、やっぱり面白いんだ！」

「彩の国シェイクスピア・シリーズの第一弾、大沢たかおさんと佐藤藍子さんの『ロミオとジュリエット』でした。衝撃でしたよ！シェイクスピアを肉体とスピードで見せる、その手法がすごく面白かった。それから蜷川さんの舞台は結構観ていて、何かと刺激をもらっていましたね。いつしかご挨拶し、会話を交わすようになって……。『NINAGAWA・マクベス』を観た時かな。あれ、俺メチャメチャ影響受けてる！と気づいたんですよ。そう蜷川さんに伝えたら、すごくニコニコして嬉しそうでした(笑)」

蜷川さんもいのうえ演出舞台を気にかけて、幾度か劇場に足を運んでいたという。いのうえさん主宰の劇団☆新感線の舞台でおなじみの効果音を、すか



『ロミオとジュリエット』大沢たかおと佐藤藍子 Photo◎高嶋ちぐさ

さず自作に取り入れていたというエピソードが頬を緩ませる。「カーン！って電子音を自分の舞台で使っていましたからね。コレ面白い！と思ったらすぐ使うところが蜷川さんの素敵なところですよ(笑)」

影響し合う、ちょっと不思議で粹な信頼関係。蜷川演出によって不朽の名作と呼ばれた作品『近松心中物語』、昨年その新演出にいのうえさんが乗り出したのも、必然の流れだったのかもしれない。

「あの舞台は、できるだけ蜷川スピリッツを継承しつつ、僕なりの世界観を伝えられたらと思ってやりました。やっぱり人の配置の仕方など、僕はものすごく蜷川さんの芝居に影響を受け、学んだと思うんです。群衆を動かして、あんなにもスペクタクル・シーンを上手く作れる演出家はなかなかいない。そこは『近松〜』ですごく意識した点ですね」

お互いの共通点は、親愛を込めて「ハッターが好き、ってことかな」とニヤリ。

「でも蜷川さんは、インテリジェンスに裏打ちされたアナーキズムを持ちつつ、ハッターをかます。そこは僕にはない世界観なので、リスペクトしつつ楽しませていただきました。蜷川さんは刺激を受けたら、チクショー、面白い！とストレートに悔しがめる人。それで自分がまた面白い芝居を作って、どうだ！って顔をする(笑)。そんなところが可愛らしくて、尊敬できるんですよ」

いのうえさんの次回作は3月、いのうえ歌舞伎の新作『偽義経冥界歌』だ。「わかる人が観たら、ああ〜あれね！と思うような蜷川イズムを感じさせますよ」と不敵に笑った。偉大なる先輩への挑戦状はまだまだ続く。劇場のどこかで、「チクショー」と嬉しそうに微笑む巨匠の姿が思い浮かんだ。



バッハ・コレギウム・ジャパン  
鈴木雅明

Photo◎ヒダキトモコ

CONTENTS

- 4 PLAY > 『CITY』
- 6 PLAY > 吉川市演劇プロジェクト第2回公演『あゆみ』観劇レビュー
- 8 DANCE > コンドルズ 埼玉公演2019新作
- 10 DANCE > デイミトリス・ババイオアヌー 『The Great Tamer』
- 12 MUSIC > 音楽年間ラインナップ
- 15 MUSIC > ピアノ・エトワール・シリーズ
- 16 MUSIC > バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《マタイ受難曲》
- 18 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 COLUMN > 林家彦いちの『一歩外へ』

編集◎川添史子、榊原律子 表紙画◎波多野光 デザイン◎GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Feb. 2019 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation  
※掲載情報は、2019年1月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



## 藤田貴大

Takahiro Fujita

マームとジブシー主宰、劇作家、演出家。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。2011年に三連作「かえりの合図、まっただ食卓、そこ、きつと、しおふる世界。」で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。『cocoon』（今日マチ子原作）の再演（2015）で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。2018年11月には日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」公式企画として『書を捨てよ町へ出よう』（寺山修司作）をパリにて上演。今もつと注目を集める若手演劇人のひとり。

## 藤田貴大

Interview

## 想像力を武器に戦うヒーロー『CITY』

気鋭の劇作家・演出家の藤田貴大が、彩の国さいたま芸術劇場で新作を発表。想像力を武器にした“ヒーローもの”を、豪華キャストで描き出す。

取材・文 ● 橋本倫史 Photo ● 井上佐由紀

——今回、10カ月ぶりの新作となる『CITY』が大ホールで上演されます。ここ数年、藤田さんが新作で描いてきたのは寓話的な世界で、『CITY』という響きとは対極にあったように思います。

そうですね。おとぎ話って、おとぎ話であるがゆえに、いろんなことに繋げやすいところもあると思うんです。でも、去年の夏に『BOAT』を作ったとき、やりきった感じがあって。次の新作はその語り方じゃなくて、もうちょっと直接的にこの街で起こっていることを描けないかなと思ったんです。

——『CITY』はヒーローものだと伺いました。なぜヒーローを描こうと思ったんですか？

シンプルに「ヒーローものが好きだ」ってこともありますが、これまでヒーロー

## STORY

現代の都市。事故で死んだ妹（青柳いづみ）の死を不審に思った兄（柳楽優弥）は、孤児としてともに育った青年（宮沢氷魚）の助力を得ながら、妹の死の真相を追っていた。猟奇的な連続殺人犯（内田健司）など、都市の暗部に否応なく触れることになった兄は、いつしか町を守る存在として悪と対峙するようになって行く。やがて妹の死から端を発した出来事が都市を脅かす一大事件へと発展する頃、兄は事件の背後にいるひとりの男（井之脇海）に辿り着く――。

チケット発売日 一般 2.2(土) メンバーズ販売中

## 『CITY』

5.18(土)～26(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作・演出]藤田貴大

[出演]柳楽優弥、井之脇海、宮沢氷魚、青柳いづみ、菊池明明、佐々木美奈、石井亮介、尾野島慎太郎、辻本達也、中島広隆、波佐谷聡、船津健太、山本直寛、内田健司(さいたまネクスト・シアター)、横木淳平(さいたまネクスト・シアター)

チケット(税込) 一般 S席5,500円 A席4,500円  
U-25\*(A席対象)3,000円/メンバーズ S席5,000円 A席4,000円

\*演出の都合上、照明が明滅する場面がございます。あらかじめご了承ください。  
\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

	5.18	19	20	21	22	23	24	25	26
	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00									
15:00									
18:30									
19:30									

年)のころは、ただモヤモヤしながら作ってたんですけど、『cocoon』（2013年）で戦争を描いたあたりから、「僕らの世代はぎりぎり免れたとしても、僕らより下の世代は戦争に巻き込まれるかもしれない」と思ってしまうようになって、自分がいる時点を意識せざるを得なくなったんです。演劇をヒロイズムでやっているつもりはないけど、何かを守りたいとか、何かを変えたいという気持ちが少なからず生じてくる。そう思っている僕と、今回主役を演じる柳楽（優弥）さんにやってもらう役が交錯してくるんじゃないかと思っています。

## 100年後の誰かへ届ける

——柳楽さんにはどんなイメージがありますか？

僕が大学1年のときに『誰も知らない』（是枝裕和監督/2004年）が公開されて、3回ぐらい映画館に観に行っただけです。映画をレポートするのは初めての体験でしたが、あの柳楽さんは誰より格好良いなと思ったんです。羽田空港の近く、飛行機があんなに近く見える高架下に妹の遺体を埋めに行く柳楽さんの目と声がすごく印象に残っていて。別にその続きをやるわけじゃないんだけど、どうしようもない育ち方をした男が、普通に生きようとするんだけど、世の中の理不尽なところにはばかり目が行って、不器用に人を殴る。そういうことを想像してますね。

——藤田さんは、今日マチ子さんによる漫画『cocoon』を舞台化する前に、今日さん

が必要だと思ったことはなかったんです。今も別にヒーローがいれば何とかなると思ってるわけじゃないけど、ここ数年は「一定の正しさは保っておかないとまずいんじゃない？」って気持ちが年々増えています。マーベルのドラマシリーズを観て、その一つひとつに興奮するんだけど、よくあるのは自警団を組んで「街をより良くしよう」とか、マスクを被って「夜な夜な悪い奴を退治しよう」ってパターンなんですよ。昔はそれを「何でこの人たちは街をより良くしようとしてるんだ？」と思ってたんだけど、徐々に分かるようになってきて、そうやって理解できてしまう気持ちも含めて「危ないな」と思ったんです。

——「危ないな」と言うとは？

そんなこと、分からなくていいことだと思っただけです。『あ、ストレンジャー』（2011

と羽田空港近くの海まで多摩川沿いを歩いたこともありましたが、これまで海を繰り返し描いてきましたが、その質感が変わりつつあるように思います。

今思い描いているのは海というより港で、『CITY』には「港湾」ってチャプターを作ろうと思ってるんです。最近、港というのは「何かを受け入れる場所」なんだと思ったんです。東京の港には次々コンテナが運ばれてくるけど、中には何が入っているか分からなくて、結構異様だと思っただけです。少し前に、入国管理局が外国人を部屋に閉じ込めていたってニュースもあったけど、大々的に報道されないレベルでいろんなことが起きてますよね。『CITY』には青柳いづみも出演して、コンテナに積まれた青柳が輸入されるシーンを描こうと思っているんだけど、魚を取引するように人が取引されていることって、「とんでもないことだ」と思いつつも、「容易に想像できるよな」と思っただけです。別に現実に起きている悪事を暴きたいと思って演劇を作っているわけじゃなくて、極論を言ってしまうと、誰かを救うことって現実世界では不可能だと思っているんです。じゃあ何がそれを可能にするかと言えば、やっぱり表現しかならないと思っただけです。現実的な人たちは「ただのキレイ事だ」と言われるかもしれないけど、表現の中に充満している想像力でしか現実と戦えないと思うんです。自分が想像したことが、今この時代には届かないかもしれないけど、100年後の誰かに届くかもしれない。そういうことに賭けてますね。

2017年夏に初公演『Y市のフシギな住人たち』を上演した「吉川市演劇プロジェクト」。これは吉川市で開催している市民劇で、公募で集まった市民たちが、発声・歌唱・身体表現といった基礎練習から始め、数カ月の稽古を経て演劇に挑む企画だ。この第2回公演が昨年11月24日と25日に行われ、前回同様、石内詠子が構成・演出を担当、彩の国さいたま芸術劇場の協力のもと照明・音響・舞台監督・制作スタッフも参加し、19歳から79歳まで19人の市民メンバーが日頃の成果を発表した。

筆者が観劇したのは公演2日目の25日で、会場である吉川市民交流センターおあ

しす 多目的ホールに入ると、ぎっしりの満員！ アクティングエリアをぐるりと囲むように3方向に設えられた客席は、期待に胸を膨らませた観客で埋まっていた。今回上演したのは柴幸男の代表作であり、さまざまなカンパニーによって上演され続けている人気作『あゆみ』。誕生、成長、初恋、就職、結婚、出産、親の死……「あゆみ」という一人の女性の“歩み”を、複数の俳優でリレーしながら演技繋いでいくという斬新なスタイルの戯曲だ。

冒頭、白い服を着た出演者たち全員が談笑しながら会場へ登場。その人の群れがだんだんと円陣となり、その中央へ車椅子

に乗った女性が現れ、立ち上がり、生まれつきの赤ん坊の“最初の1歩”を演じ始める——。この場面から、彼女が送ってきた人生を見ていく芝居なのだと分かるオープニングは鮮やか。劇中、車椅子の女性はずっと舞台上に存在し、自分が体験してきた人生の喜び、悲しみを、生き生きと立ち上げていく若い人たちを、どこか懐かしそうに見守る。この仕掛けによって場面場面がどこか儚く愛おしく見えてきて、メンバーたちの瑞々しくハツラツとした演技と相まって、チャーミングな『あゆみ』となった。最後の歌とダンスシーン（振付は城俊彦）《Always Look On The Bright

Side Of Life（いつも人生の明るい面を見よう）》でもそれぞれの動きが躍動し、人生賛歌のような舞台に。描かれるのはある意味とても平凡な人生だが、そこに観客は、自分の歩んできた人生を自然と重ねていったであろう。客席には、涙ぐむ人もいた。

### 人生経験の交差点としての演劇

演出の石内は同作を「老女・あゆみが死ぬ前に見た夢」として描いたと語る。「今、私の祖母が認知症で施設に入っているんですが、お見舞いに行った時に“色々な記憶がなくなっていく祖母の頭の中は、一体どうなっているんだろう？”と考えたことが元になっています。そこから、車椅子のおばあちゃんと、それを介護している人なのか、妖精なのか、妖怪なのか、取り巻く人たちが彼女の人生を再現している……という、オープニングのアイデアを思いつきました」

1回目に続けての参加者が多くを占め、彼らの人生にとって、演劇が大切なものになっているように感じた。

「昨年はオムニバスでしたから、一本の作品をやるのは前回の10倍大変でした（笑）。でもみんなが自主的に稽古もしてくれて、それも生きた気がします。ディスカッションしながらつくったのですが、それぞれが自分の経験からの観点を提示して

くださいました。例えば妊婦さんの行列の場面はメンバーに経験者が山ほどいて、歩き方にもリアリティーが生まれたり……みんなの記憶の集合知で作った『あゆみ』になったと思います」

カンパニー最年長で、中心となる老女を演じたのは戸部静江さん（79歳）。夫の病気を期に、同市に住む娘夫婦のそばに引っ越してきたのをきっかけに、同企画へ参加したとか。感想を聞くと、輝くような笑顔を見せてくれた。

「こちらには友人もいなかったし、認知症の夫の病院とを行き来するだけの生活をしていたら、声が出にくくなっちゃったんです。それで発声訓練のつもりで参加したら、お芝居に出ることになって、びっくりしちゃって（笑）。でも今は若い仲間がたくさんできて嬉しいし、本当に楽しくて！ぜひ次も出たいです」

「さいたまゴールド・シアター」に触発されて同公演を企画したという中原恵人・吉



川市長は、この演劇プロジェクトを見守り続けているだけに、終演後はホッとした表情だった。

「稽古でうまくいかなかったあの場面は大丈夫かな、あそこの台詞は飛ばないかな？なんて、母親みたいな気持ちで最初から泣きそうな気持ちでした（笑）。でも、みんなでサポートし合いながら作り上げた姿に感動しましたし、新しく入ってくれた人たちも見事に融合していましたよね。2年目ならではのチームワークで、誰一人離脱せず、最後まで演じてくれたことに感謝しています。今回は市外の方も観てくださったようですし、もっと多くの人に観ていただきたいです」

関わった人たちは全員が充実した顔で、公演の成功をひしひしと感じた。この体験は、次回公演への“あゆみ”、次への一步の動力となるだろう。



# 人生経験が生きる舞台

## 吉川市演劇プロジェクト第2回公演『あゆみ』観劇レビュー

昨秋、埼玉県・吉川市で企画された市民劇。

幅広い年齢のメンバーたちが立ち上げた一人の女性の物語は、演者、演出家、観客、それぞれの人生につながるような舞台だった。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子



## 東松山戯曲賞優秀作品は緑川有氏作『枇杷の家』に決定 3月に瀬戸山美咲演出、朗読劇として上演！

東松山文化まちづくり公社主催（舞台制作協力=彩の国さいたま芸術劇場）による「平成家族物語」舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾「東松山戯曲賞」は、選考委員の岩松了、岩崎正裕、桑原裕子、瀬戸山美咲らのもと、緑川有氏の『枇杷の家』に決定。



東松山戯曲賞優秀作『枇杷の家』朗読劇制作発表会  
左から、緑川有氏、瀬戸山美咲氏

“アラ還”女性3人が住むシェアハウスを舞台に、ユーモラスで生き生きとした会話が展開される作品が受賞した。

この作品は朗読劇として、3月24日に東松山市松山市民活動センターホールで瀬戸山氏演出にて上演し、2019年度に演劇、その後は音楽劇として上演予定。



制作発表会の様子

舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾  
東松山戯曲賞優秀作朗読劇

### 『枇杷の家』

[日時]3月24日(日)11:00/15:00開演

[会場]東松山市松山市民活動センターホール

[演出]瀬戸山美咲 [作]緑川有

[主催]公益財団法人東松山文化まちづくり公社

[チケット]

発売日:2月5日(火)10:00~

料金:一般 2,000円

高校生以下 1,000円(未就学児はご入場できません)

取扱い:

公益財団法人東松山文化まちづくり公社 0493-24-6080

CNプレイガイド 0570-08-9999

[お問合わせ]

公益財団法人東松山文化まちづくり公社

Tel.0493-24-6080

HP: <http://www.pac.or.jp/hfs.html>

mail: [hfs@pac.or.jp](mailto:hfs@pac.or.jp)

※SAFチケットセンターでのお取り扱いはありません。  
予めご了承ください。

— 彩の国さいたま芸術劇場のコンドルズ新作公演は今年で13回目。でも現時点ではタイトルも決まっていなかったか。

**近藤** 10回目が『LOVE ME TenDER』(2016年)、続いて『17's MAP』(2017年)、『18TICKET』(2018年)と数字の語呂合わせがハマったここ数年。でも「19」は結構難しく。ローリング・ストーンズの曲に「19回目の神経衰弱」というのはあるけれど、調べたら19は「何度も繰り返して過ぎて意味がない」数字らしい。なのでプロデューサーの佐藤



まいみさんと僕と勝山(康晴)とで、タイトル会議は続行中。でも

若手は、チラシで初めてタイトルを知るのが普通だね(笑)。

**三人** ですね。

— ジントクさんと黒須さんは、香取さんに続くコンドルズ久々のルーキー。埼玉での公演で印象に残ることと言えば？

**香取** 結構走り回る演出もあったしね。

**近藤** 舞台裏は見えているエリアより広いから、余計でしょ。

**黒須** 昨年3月の『ダブルファンタジー』(あうすぽと)を経て、『18TICKET』が僕のコンドルズ本格デビュー戦。緊張し



すぎて初めて本気で足がすくみました。同時に僕は埼玉出身で、県を代表する劇場の大舞台に立ったことは、すごく嬉しかったです。

**香取** 埼玉大学出身の僕にとっても彩の国さいたま芸術劇場はホーム感のある劇場。5年前のデビューも埼玉で、その時は本当に緊張しました。でも大空間だからこそ味わえる、観客との関係や興奮みたいなものもあって。二人にもそれを味わって欲しいし、自分がその助けになればと思います。

— さすがのアニキ視点ですね。

**香取** 後輩だなんて気楽に思えませんよ！ ただ二人のお陰で、僕は自分を俯瞰

できるようになりました。

**近藤** コンドルズは、埼玉の新作をベースに夏のツアーに臨むのが通例。稽古場が広く、アイデアを形にできる環境が整った埼玉での創作は、その年のコンドルズを左右する大事な時間なんだ。

**新作に向けたそれぞれの「野望」**

— 若手の増員で、コンドルズ内の空気も変わっているのでしょうか？

**近藤** 20年も続けていると、ちゃんとした集団に見える一種のブランド力がついてきた気もするけれど、僕らは基本イイ加減な関係(笑)。求められればボ



ス役は担うけれど、僕自身は若手を教えよう・育てようなんて思っていない。ただお互いに信頼し、興味を持ち合えないと一緒に作品はつくれないよね。結成から今日までメンバーを誘う時の基準は同じだし、僕らの空気感もきっと変わってないし。ただ若手は反応が速いから、稽古を活性化してくれるのがいい。先輩方は瞬発力に欠けるし、言うことも聞かないから(一同笑)。

**香取** 憧れのカンパニーに入れた後も、ついて行くのでやっとならぬ。でもこれからは少しずつ自分を出すことも考えないと、ですね。

**黒須** 僕も先輩方と過ごす時間が長くなり、ただイジってもらうだけでなく、先輩方の残す足跡を、意識的に自分で踏み直す歩み方を見つけたいと思うようになりました。

**香取** 個性をぶつけ合う先輩方の中にいて、時間はかかったけれどようやく自分の色の出し方がわかり始めたのが今。『18TICKET』では、6人編成で自分がメインのダンスをつくらせてもらったのも大きかった。僕に比べたら二人は集団内での居方を見つけるのが速いよね。

— 最後に次回の埼玉新作で、「コレをや

りたい！」という若手の野望を伺えますか？

**香取** 折角若いメンバーが増えたので、若手6、7人くらいの群舞をやりたいです。その中に身を置くことで、また新たな自分に気づけそうな気がするのよ。

**近藤** 誰まで「若手」かが問題だね(笑)。

**黒須** 僕は……前回以上に地元アピールを頑張る、くらいでしょうか(笑)。

**ジントク** 僕は『17's MAP』の壁のような大きなセットを扱うシーンをやったことがないんです。なので大空間ならではの舞台美術と絡んでみたいです。

**近藤** セットじゃないけど、うちではまだフライングをやっていないんだよ。

— 意外です。

**近藤** ね。黒須はフライングはどう？

**黒須** 僕でいいんですか？

**近藤** 超ゆっくり低空でとか、オクダ(サトシ)さんと一緒とか(笑)。あと、公演する頃には元号が改まってるよね。そこに絡めて何かやりたいな。50年生きてる間に3つの元号を体験すると思わなかったし、タイトルには間に合わないけれど、またカウントがゼロに戻る貴重な機会だから(若手しきりに感心)。

**香取** スゴイ、ワクワクしますね！

コンドルズ主宰・振付家

コンドルズ・メンバー

# 近藤良平 × 香取直登 × ジントク × 黒須育海

結成20年を過ぎても常に新メンバーが投入され、パワーアップし続けるダンスカンパニー、コンドルズ。毎年恒例の新作を前に、香取直登、ジントク、黒須育海といった新人たちに、ボス近藤良平を囲んでもらった。この座談会で新作へのカウントダウンを始めよう。

取材・文 ● 尾上そら(ライター) Photo ● 片山貴博



## コンドルズ新作公演

### ボスと若手三人衆、座談会

コンドルズ  
CONDORS

男性のみで結成されたダンスカンパニー。舞台衣装は学ラン。ダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを大胆に展開するジャンル横断的な手法で、独自の世界観溢れる舞台を創り出す。国内はもとより、これまでに世界約30か国で公演。ダンスだけでなく演劇、TV、ラジオ、映画への出演・振付も多数。2016年に結成20周年を迎え、NHKホールで2日間の単独公演を行った。日本の舞台芸術界で異彩を放つ注目のダンス・グループ。

**黒須育海**  
Ikumi Kurosu

埼玉県出身。横浜ダンスコレクションEX2015コンペティションにてシビウ国際演劇祭賞、Touchpoint Art Foundation賞をW受賞。2017年、同コンペティションにて審査員賞受賞、海外公演も。2018年繊細に動きたい男集団「プッシュマン」を旗上げ。2018年よりコンドルズ参加。

**ジントク**  
Jintoku

広島県出身。蛭川幸雄、大植真太郎、近藤良平作品などに出演。その他、サカナクションPV出演など。また大学や専門学校にて非常勤講師として身体実技を担当。2013年よりCHAIROIPLIN主要メンバーとして全作品に出演。コンドルズ参加は2017年。

**近藤良平**  
Ryohei Kondo

ベルギー、チリ、アルゼンチン育ち。「コンドルズ」主宰。NHK『サラリーマンNEO』、『からだであそぼ』などに振付出演。立教大学などで非常勤講師も務める。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回横浜文化賞受賞。2019年NHK大河ドラマ『いだてん』ダンス指導。

**香取直登**  
Naoto Katori

埼玉大学卒。横浜ダンスコレクションEX2015シビウ国際演劇祭賞、Touchpoint Art Foundation賞など受賞多数。理系ダンスカンパニー・ケミカル3主宰。2016年舞台『パタリロ!』(演出:小林顕作)出演。無類の菓子好き。2014年よりコンドルズ参加。

チケット発売日 一般2,16(土) メンバーズ2,9(土)

**コンドルズ 埼玉公演2019新作**

5.11(土)14:00 / 19:00、12(日)15:00  
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[構成・映像・振付]近藤良平 [出演]コンドルズ

チケット(税込) 一般 前売S席5,000円 A席3,500円  
U-25\* 前売S席3,000円 A席2,000円  
メンバーズ 前売S席4,500円 A席3,200円

\*当日券は各席種とも+500円  
\*A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見えない場合がございます。  
\*5.11(土)14:00公演を除き、未就学児の入場はご遠慮ください。(有料託児サービスあり。要事前予約。)  
\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を提示してください。

**5.11(土)14:00の回限定 0歳児から入場可!**

未就学児(0歳~6歳) S席1,500円

\*S席のみ。エリア限定。枚数制限あり。  
\*未就学児の入場には保護者の同伴が必須。  
\*膝上鑑賞無料(ただし3歳まで)。  
\*4歳以上、また3歳以下の場合も座席を指定する場合はチケットが必要。

[未就学児チケット取扱いお問合せ]  
SAFチケットセンター窓口・電話受付のみ  
0570-064-939(休館日を除く10:00~19:00)



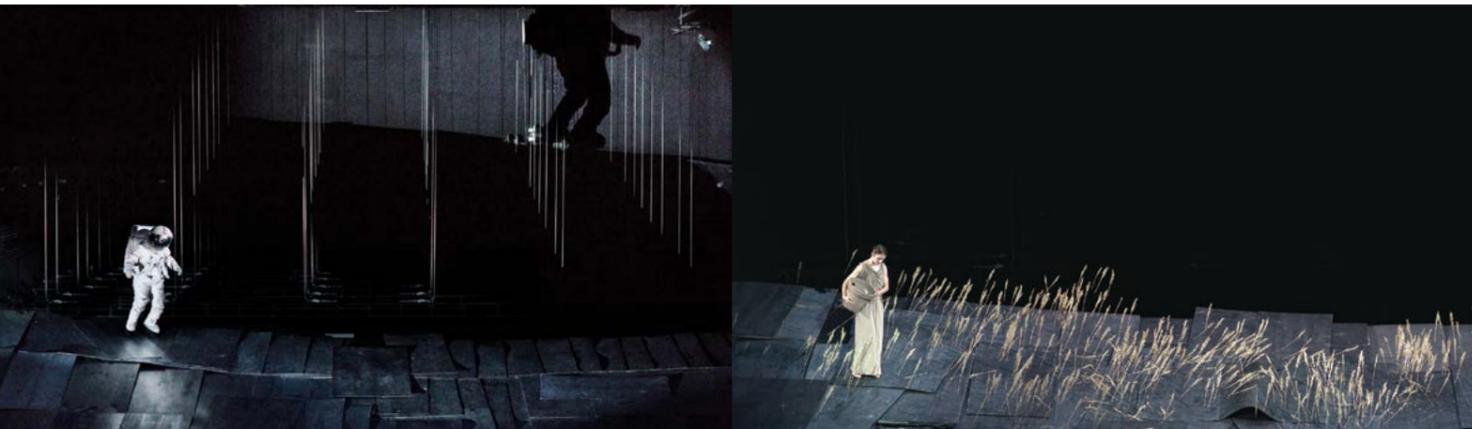
Dimitris Papaioannou

# ディミトリス・パパイオアヌー 偉大なる魔術師

ディミトリス・パパイオアヌー 『The Great Tamer』

舞台芸術の魔術師と称される、ギリシャのディミトリス・パパイオアヌーが待望の初来日を果たす。  
2017年夏のアヴィニオン演劇祭の話題を独占し、世界各地で絶賛を浴びる革新的な作品の中身へ迫る。

文 ● 藤井慎太郎 (早稲田大学教授・現代舞台芸術論) Photo ● Julian Mommert



ディミトリス・パパイオアヌー

(演出・振付家)

Dimitris Papaioannou

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を開始。NYでダンスを学び、1986年にエダフォス・ダンス・シアターを設立。以後フィジカル・シアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年開催のアテネ五輪では開閉会式を演出。『PRIMAL MATTER』(2012年初演)、『STILL LIFE』(2014初演)でヨーロッパ、南米、アジア、オーストラリアで大規模なツアーを行う。また、2018年5月には独ヴッパタール舞踊団の委嘱により、同舞踊団に『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。

ディミトリス・パパイオアヌーは1964年にギリシャに生まれ、アテネ美術学校に学んだ振付家・演出家である。2004年のアテネ・オリンピックにて開閉会式の演出を担当したといえ、ギリシャの神話や美術(史)の形象をちりばめた壮大なスペクタクルを思い出す人も多いだろう。開閉会式の演出に指名されたときにはまだ30代であったパパイオアヌーも今では50代になり、ギリシャはもちろんヨーロッパ諸国ではきわめて高い評価と人気確立している。

このたび彩の国さいたま芸術劇場で招聘公演が実現することになった『The Great Tamer』(偉大なる調教師)も、初演以来、世界各地でツアーが続く彼の代表作の一つである。2009年には同年に急死したピナ・バウシュに捧げた『Nowhere』という作品を発表していたパパイオアヌーだが、2018年には、彼女が率いたヴッパタール舞踊団に新作『Since She』(彼女が……ときから)を振り付けてもいる。

だが、パパイオアヌーの才能が最初に認められたのは美術、イラストレーション、漫画(漫画といっても総じて芸術性の高いものである)の領域であった。彼が舞台芸術に転じるきっかけになったのが、ニューヨークに滞在していた1986年に、エリック・ホーキンスらのダンスと出会ったことだという。その後の1989年にはベルリンに滞在してロバート・ウィルソンのアシスタントも務めている。

## 彫像と対話するような美の世界

『The Great Tamer』をはじめとするパパイオアヌー作品は、ダンスとフィジカル・シアターとインスタレーションの交差

するところにあるといえるだろう。それはまず、シュルレアリスムのともいえる、夢のようなイメージが連鎖するスペクタクルである。言葉は用いられないが、だからといって演劇性やユーモアを拒むわけではない。美術畑の出身であるだけあって、セノグラフィ(舞台美術)には工夫が凝らされ、ギリシャ的な———ということはルネサンス以降のヨーロッパ全体の———芸術と美、さらにいえばエロスの歴史に対する言及であふれ、そして何より、視覚的に完成され、どの瞬間をとっても美しい。まさに古典的な美を体現する彫像のような(とりわけ男性の)パフォーマンスの存在も、そうした美的・詩的な印象をさらに強める。

言葉を発することのない彫像が、私たちに何かを語りかけてくる、そしてその言葉を聞き取ろうとして私たちがさらに耳をそばだてるときのような関係が、パパイオアヌーの舞台と観客の間にも存在している。特に、ミロのヴィーナス、ヘラクレスのトルソといった、不完全な状態にある彫像を見て、失われた部分を想像しながら、私たちがそれらと「対話」するのに似ていると思うのだ。

## 生と死の往還

『The Great Tamer』は、友達からいじめを受けて自殺した少年が泥に埋もれていたところを発見された、という痛ましい事件を出発点としているという。だが、そう言われなければ気づくこともないほどに、パパイオアヌーの想像力によって、作品はそこから大きくふくらみ、幻想的かつ普遍的な世界へと広がっている。言葉を伴わないイメージの連鎖からなるこの作品に物語性は希薄であるが、ある一定の主題性は感じ

られる。それは、生と死、エロスとタナトス、命あるものと命なきものとの間の往還といえるだろうか。

身体はときに動き、踊り、空を舞い、エロスを体現し、笑いを引き起こし、ときに崩れた彫像のように断片となり、ときに動くのをやめる。同じように、一見するとパネルを重ねた斜面から構成される舞台空間も、それ自体がすでに完成された「作品」にも見えるのだが、その完成は決して不動のものではなく、不安定でもろく儂いものであることが分かる。地面の下には様々な仕掛けが凝らされ、隠され、思いがけないところから思いがけないものが現れ、さりげなくも変わりゆく照明の効果も相まって、空間もまた生命を得た、息づく存在であるかのように振る舞うのだ。

この作品では息や風も重要な役割を果たしているのだが、ブシケやブネウマといった語に見られるように、ギリシャ語においては空気の流れ、息吹き、生命、魂/精神が密接に結びついていたことを思い出させる。その意味で、『The Great Tamer』の身体と舞台装置は、どちらも生と死、運動と静止の間を往復してみせる点で等価であった、それを同じ時空間のなかに調和させ共存させるその手つきは魔術的である。

2017年7月にアヴィニオン演劇祭で上演された『The Great Tamer』を私が見て、聞きとったことを、いくつかの資料やウェブサイトから得られた情報を交えて、このように綴ってみた。この作品に正しい見方など存在しない。みなさんが本作品とどのような対話を交わされるのか、埼玉公演が楽しみである。

チケット発売日 一般 3.16(土) メンバーズ 3.9(土)

ディミトリス・パパイオアヌー  
『The Great Tamer』

6.29(土) 15:00、30(日) 15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付]ディミトリス・パパイオアヌー

チケット(税込) 一般 前売S席6,500円 A席4,000円

U-25\* 前売S席3,500円 A席2,000円

メンバーズ 前売 S席6,000円 A席3,600円

\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。  
※当日券は各席種とも+500円  
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見えない場合がございます。予めご了承ください。

彩の国さいたま芸術劇場  
& 埼玉会館

## 2019年度 音楽公演 ラインナップ紹介

2019年度は、バッハの魅力堪能する公演が充実。そして、世界的な音楽家の演奏会、ジャンルを超えたコラボレーションの公演も。多彩な音楽を楽しむ2019年度音楽公演ラインナップをご紹介します！

文 ● 林田直樹 (音楽ジャーナリスト・評論家)



バッハ・コレギウム・ジャパン  
指揮 鈴木雅明 Photo◎Marco Borggreve



大塚直哉 Photo◎E. Shinohara



テアトロムジーク・インプロヴィーズ Photo◎泉山朗士



アンサンブル・ウィーン=ベルリン Photo◎青柳 聡



佐藤俊介 Photo◎Yat Ho Tsang



オランダ・バッハ協会管弦楽団

最初に宣言しておこう。

数少ない昔からの埼玉県在住の音楽評論家の一人として、私は彩の国さいたま芸術劇場と埼玉会館の大ファンであり、応援の気持ちをずっと持ってきた。

埼玉会館は、私が小学生の頃から、もっとも身近な音楽の殿堂であった。生まれて初めてオーケストラを聴いたのは埼玉会館であり、いまでも胸の疼く特別な場所である。

彩の国さいたま芸術劇場は、音楽・演劇・舞踊が共存する、最良のパフォーミング・アートの風景を感じることでできる場所として、首都圏で独自の存在感を放ってきた。

劇場とは、そのファンになることで、より楽しめるようになっていく場所だ。

演劇やダンスをきっかけにこの劇場にやってきた人たちが、ふと音楽公演にも目を留めて、足を運んでくれる——あるいはその逆も——という楽しみ方が、これからはもっと広がっていくと信じている。

### 世界最高峰のバッハ演奏 バロック音楽の神髄を味わう

いまや世界最高のバロック・アンサンブルの一角を担うようになったバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) は、1997年以来、毎年必ず彩の国さいたま芸術劇場に来ている。レコーディングもしばしばおこなわれ、2016年からは音楽監督・鈴木雅明がレクチャーも開催するなど、その関係は深まる一方だ。首都圏の他のホールでの公演との違いは、604席の親密な空間で聴ける贅沢さだろう。今シーズンはバロック音楽史における最大の金字塔ともいべき傑作、バッハ《マタイ受難曲》(4月13日)。これは音楽が素晴らしいだけでなく、バッハによるキリストの受難についての演劇的再構成でもある。BCJの演奏は、今後も毎年必ず聴けるので、ぜひチェックしておきたい。

古楽というジャンルは、いまクラシック音楽の世界で、もっとも熱い。その中心

にあるのが、チェンバロとオルガンである。大塚直哉によるレクチャー・コンサート(7月7日、2020年2月2日)は、鍵盤音楽の聖典ともいえるバッハの《平均律クラヴィーア曲集第1巻》から1曲ずつを、音色の違う二つの楽器(ポジティブ・オルガンとチェンバロ)による演奏と解説によって丁寧に読み解いていくシリーズ。大塚さんのレクチャーは私も拝見したことがあるが、とても語り上手で流れが気持ちよく、演奏ともども聴いていて決して飽きることはない。フーガという音楽美の深奥に迫りながらも、楽しい時間をきっと過ごせるはずだ。ゲストにバロック・ヴァイオリンの名手、若松夏美が加わって無伴奏ヴァイオリン・ソナタも聴かせてくれるので、音楽的にさらに充実感たっぷりなものになるだろう。

### 埼玉県の魅力を表現する 音楽・演劇・美術のコラボレーション

演劇ファンやファミリーにもおすすめな

のが、イタリアのマントヴァを本拠に30年以上ものキャリアで児童劇団を主宰する演出家・俳優・美術作家のダリオ・モレッティと、作曲家の野村誠(ピアノ)、やぶくみこ(打楽器)によるユニット、テアトロムジーク・インプロヴィーズ「うつくしいまち」(8月4日)。これは音楽と演劇と美術が融合した子供向けのパフォーマンスで、メンバーは埼玉県のみならず魅力を知るために、1週間早めに滞在リサーチして、準備を進めるとのこと。いったいどんなコラボレーションになるのか、一流のアーティストが子供をこれほど念頭に置いて本格的創作をおこなう機会は意外と少ないから、夏休み中に子供を芸術と触れ合わせる絶好のチャンスといえる。

### 管楽器、ヴァイオリン、ピアノ 世界的な奏者が続々登場!

高校の部活などで吹奏楽を楽しんでいる人にとっては、アンサンブル・ウィーン=ベルリンがやってくるのは、世界の頂点と

もいえる管楽器奏者たちのプレイにじかに接することができるという意味で見逃せない(9月28日)。2015年、17年に続いて彼らの公演も定着しつつあるが、いまコンサートホールにとって大切なのは、アーティストとの関係が単年度だけの打ち上げ花火に終わらず、継続的な関係を結ぶことだから、アンサンブル・ウィーン=ベルリンともそれが確立しつつあるのは素晴らしいことだ。ウィーン・フィルの新たな顔ともいべきフルートの天才カール=ハインツ・シュッツ、ベルリン・フィルの首席クラリネット奏者で名門音楽一家のひとり、アンドレアス・オッテンザマー、同じくベルリン・フィルの首席ホルン奏者でスーパースターのシュテファン・ドールなど、至高の技が堪能できるはずだ。

古楽から現代作品まで、幅広いジャンルで枠にとらわれず挑戦を続ける真の実力派ヴァイオリニスト佐藤俊介も、彩の国さいたま芸術劇場とは縁が深いアーティストのひとりである。オランダ・バッハ協会の

アンサンブルを率いての公演(10月5日)は、華やかな響きを楽しめるバッハの《管弦楽組曲第1番》に加え、バッハと同時代にドレスデンの宮廷で活躍したピゼンデルの興味深い《ダンスの性格の模倣》などが取り上げられる。佐藤さんは今後10年後、20年後、さらに世界の音楽シーンの最前線に行く希望の星なので、彼が最良の成果を常にさいたまに持ってきてくれるのは、とてもうれしいことだ。

ピアノの音色の純粋なこと、響きの広がり豊かさにおいて、ハンガリーの名ピアニスト、アンドラーシュ・シフほどの個性と風格を示す人が他にいるだろうか。近年のシフの演奏を聴くたびに感じるのは、妥協をゆるさぬ求道の姿勢である。お気に入りの調律師を必ず連れてくるなど、そのこだわりぶりは尋常ではない。2017年のリサイタルでは、プログラムされた4つの作品すべてを休憩なし、拍手なしで通したという集中ぶりが伝説ともなっている。今回はどんな楽曲をプログラムにのせようと



アンドラーシュ・シフ Photo©Nadia F. Romanini



下野竜也 Photo©Naoya Yamaguchi

小山実稚恵 Photo©Wataru Nishida

も、静寂と思索にみちた時間がきっと過ごせるはずだ(2020年3月14日)。

### 埼玉会館でN響を聴く

埼玉会館には、NHK交響楽団が下野竜也指揮、小山実稚恵のピアノでやってくる(11月2日)。冒頭で述べたように、ここは古くからの埼玉県の地元の、特別な音楽の殿堂である。いま日本で活躍する中堅世代の指揮者たちのなかで、マエストロ下野の実力と存在感は素晴らしいものがある。彼がここに来てくれるのはうれしいことだ。さいたま市とも縁の深い小山実稚恵も、思いのこもった演奏を聴かせてくれるに違いない。

また引き続き、お昼とき気軽に一流の演奏が楽しめる埼玉会館ランチタイム・コンサートも年4回開催する。

\*

最後に、光の庭プロムナード・コンサート

ト(無料)について。彩の国さいたま芸術劇場の1階情報プラザに、ガラス張りの中庭があるのをご存知の方もいらっしゃるだろう。あの場所は、まるで教会のように音響効果も豊かで、オープンスペースでのコンサートに大きな可能性をもっている。そこで、大塚直哉の構成により、ポジティブ・オルガン(移動可能な小型のパイプオルガン)を軸に、さまざまな楽器との共演によるコンサートが午後のひとときにおこなわれる。スペシャル公演では、地元のばら愛好家の方々の協力を得て、本物のばらがたくさん飾られたり(与野はばらの街である)、クリスマスには本物のキャンドル(その炎の魅力は特別なものだ)が飾られたりと、華やかな雰囲気が演出される。今年度も8回が予定されている。ぜひこの劇場の魅力さをさらに味わうためのきっかけとしてみてはいかがだろう。

## SCHEDULE

### 彩の国さいたま芸術劇場

- 4月13日(土)15:00  
バッハ・コレギウム・ジャパン  
J. S. バッハ《マタイ受難曲》☞ 詳細はP.16-17
- 6月16日(日)15:00  
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.8  
萩原麻未 ピアノ・リサイタル ☞ 詳細はP.15
- 7月7日(日)14:00  
大塚直哉レクチャー・コンサート  
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”  
Vol.2「フーガ」の苦しみと喜び
- 8月4日(日)14:00  
テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ  
「うつくしいまち」
- 9月28日(土)15:00  
アンサンブル・ウィーン=ベルリン
- 10月5日(土)14:00  
佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団
- 11月17日(日)15:00  
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.37  
ルーカス&アルトゥール・ユッセン  
ピアノデュオ・リサイタル ☞ 詳細はP.15
- 2020年2月2日(日)14:00  
大塚直哉レクチャー・コンサート  
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”  
Vol.3 “平均律 wohltemperiert”の謎
- 2020年3月8日(日)15:00  
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.38  
ベアトリーチェ・ラナ  
ピアノ・リサイタル ☞ 詳細はP.15
- 2020年3月14日(土)開演時間未定  
アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル

### 光の庭プロムナード・コンサート

- 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1階)  
各回14:00~14:40 ※第112回のみ17:00~17:40 ※入場無料  
※当初発表した内容から出演者が一部変更となりました。何卒ご了承ください。
- 第106回 4月20日(土)  
長谷川美保(オルガン)&座古瑞穂(和太鼓)
  - 第107回 5月18日(土)ばらまつりスペシャル  
大木麻理(オルガン)&加賀谷翠(オーボエ)
  - 第108回 6月22日(土)  
秋本奈美(オルガン)&福井彩花(ヴァイオリン)
  - 第109回 7月27日(土)夏休みスペシャル  
早川幸子(オルガン)&田島和枝(笙)
  - 第110回 9月14日(土)  
大塚直哉(オルガン)&宇治川朝政(リコーダー)
  - 第111回 10月19日(土)  
三上郁代(オルガン・ソノ)
  - 第112回 12月21日(土)トワイライト・スペシャル  
田上麻里(オルガン)&北村さおり(ソプラノ)
  - 第113回 2020年3月21日(土)  
原田真侑(オルガン)&前澤歌穂(メゾ・ソプラノ)

### 埼玉会館

- 11月2日(土)16:00  
NHK交響楽団  
下野竜也(指揮) 小山実稚恵(ピアノ)

### 埼玉会館ランチタイム・コンサート

- 会場=埼玉会館 大ホール  
各回12:10~13:00 全席指定1,000円
- 第39回 6月14日(金)イリーナ・メジュエワ(ピアノ)
  - 第40回 9月10日(火)菅原 潤とN響メンバーによるアンサンブル
  - 第41回 12月6日(金)きりく・ハンドベルアンサンブル
  - 第42回 2020年3月30日(月)春休みスペシャル  
東京交響楽団メンバーによる《動物の謝肉祭》

※2019.1.現在。やむを得ぬ事情により、出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## MUSIC

# ピアノ・エトワール・シリーズ 2019年度の3つの星

今、世界が注目する新進気鋭ピアニストの中でも、エトワール(星)のごとくひとときを輝く奏者が意欲的なプログラムを披露する、彩の国さいたま芸術劇場の名物シリーズ「ピアノ・エトワール・シリーズ」。2019年度も今聴き逃したくない若きピアニストが登場! 11月は、オランダで国民的な人気を誇るルーカス&アルトゥール・ユッセン。2020年3月は、イタリアの新星、ベアトリーチェ・ラナ。そして、皆様からの「また聴きたい」というリクエストにお応えし、萩原麻未が6月に「アンコール!」として登場する。

文●榎原律子

### 5年ぶりの登場! 萩原麻未のエレガンス

5年前にシリーズに登場した萩原麻未が「アンコール!」で帰ってくる。2010年ジュネーヴ国際コンクール・ピアノ部門で日本人初の優勝に輝いてから9年。近年は室内楽にも積極的に取り組み、日本の音楽シーンに欠かさないピアニストとして大活躍中だ。彼女の音楽の魅力はエレガントさ。自在に揺らすメロディの歌わせ方は、同世代の日本人ピアニストには聴けない優美なものだ。天性の感性に、留学先のパリでさらに磨きをかけた彼女のみずみずしい音楽性は、5年前のシリーズ出演時のフランス音楽プログラムでも聴かせてくれたが、今回のショパン《ワルツ集》やラヴェル《ラ・ヴァルス》でも一層堪能させてくれるはず。ヒナステラ《アルゼンチン舞曲集》のエネルギッシュな音楽をどう聴かせるかも注目だ。

### シリーズ初のピアノデュオ! ルーカス&アルトゥール・ユッセン

11月は、兄ルーカス(1993年生)、弟アルトゥール(1996年生)のユッセン兄弟が、シリーズ初のピアノデュオとして登場。オランダ出身の2人は子どもの頃から演奏活動を始め、リサイタルやコンサートへボウ管などの共演はもちろん、御前演奏、アムステルダム運河フェスティバルでのコンサート、テレビへのたびたびの出演など、国民的人気を誇るピアニストだ。ピリスに認められ指導を受けた正統派ピアニストな上にイケメンの2人は、「お互いどんな音楽にしたいか明確に分かる」と語り、息ぴったりアンサンブル、豊かな表現力と多彩な音で魅せる。今回は2人が得意とするレパートリーでピアノデュオの醍醐味を味わわせてくれるが、中でもファジル・サイが彼らのために2016年に作曲した《夜》は必聴だ。

### イタリア出身でイギリスでも大注目 ベアトリーチェ・ラナ

2020年3月はイタリアの新星ベアトリーチェ・ラナ。1993年、ピアニストの両親のもとに生まれた彼女は9歳でデビュー、2011年モントリオール国際音楽コンクール優勝、2013年ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール銀賞で世界の第一線に躍り出た。2018年、イギリスで活躍したクラシックとクロスオーバーの音楽家に贈られる「クラシック・ブリット・アワード2018」の「最優秀女性アーティスト賞」にノミネート。候補者5人のうちクラシック音楽家は彼女とルネ・フレミングだけというから、いかにラナが大活躍中なのがわかる。今回のプログラムは現段階では未定だが、幅広いレパートリーを持つ彼女が、強靱なテクニックと透明感のある音色、そしてイタリア人ならではの歌心に満ちた演奏でどんな曲を披露してくれるか、とても楽しみだ。



萩原麻未 Photo©Marco Borggreve



ルーカス&アルトゥール・ユッセン Photo©Marco Borggreve



ベアトリーチェ・ラナ photo©Nicolas Bets

### 【3公演セット券】チケット販売中

【アンコール! Vol.8 1回券】発売日 一般 2.9(土) メンバース 2.2(土)

## 2019年度ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.8 萩原麻未 Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン Vol.38 ベアトリーチェ・ラナ

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【アンコール! Vol.8 萩原麻未】

6.16(日)15:00

【曲目】ショパン:《ワルツ集》より  
ラヴェル:ラ・ヴァルス  
ヒナステラ:アルゼンチン舞曲集 ほか

【Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン】

11.17(日)15:00

【曲目】  
モーツァルト:2台のピアノのためのソナタ 二長調 KV 448(375a)  
ファジル・サイ:夜(4手)  
ラヴェル:マ・メール・ロア(4手のための組曲)  
ラ・ヴァルス(2台ピアノ) ほか

【Vol.38 ベアトリーチェ・ラナ】

2020年3.8(日)15:00

【曲目】調整中  
※前号においてVol.38公演日の記載に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

チケット(税込)

【3公演セット券】一般・メンバース 正面席9,000円  
バルコニー席7,500円 / U-25\*(バルコニー席対象)3,000円  
【各回】一般 正面席3,500円 メンバース 正面席3,200円  
バルコニー席2,500円 / U-25\*(バルコニー席対象)1,000円  
※Vol.37 発売日 一般6月15日(土) メンバース6月8日(土)  
※Vol.38 発売日 一般10月5日(土) メンバース9月28日(土)

\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。  
入場時に身分証明書をご提示ください。

バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《マタイ受難曲》

# 鈴木雅明 *Interview*

鈴木雅明  
(指揮)

Masaaki Suzuki

1990年「バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ)」を創設して以来、バッハ演奏の第一人者として名声を博す。グループを率いて欧米の主要なホール、音楽祭に多く出演、極めて高い評価を積み重ねている。近年はモダン・オーケストラとも活発に共演し、多彩なレパートリーを披露。2001年ドイツ連邦共和国功勳章功勞十字小綬章、平成23年紫綬褒章など受賞。2012年バッハの演奏に貢献した世界的音楽家に贈られる「バッハ・メダル」、ロンドン王立音楽院・バッハ賞を受賞。2013年度第45回サントリー音楽賞をバッハ・コレギウム・ジャパンと共に受賞。2015年ドイツ・マインツ大学よりグーテンベルク教育賞を受賞。イェール大学アーティスト・イン・レジデンス、シンガポール大学ヨン・シウ・トウ音楽院客員教授、神戸松蔭女子学院大学客員教授、東京藝術大学名誉教授、オランダ改革派神学大学名誉博士。

## 彩の国で10回目の《マタイ受難曲》 そして、20年ぶりの新録音

日本が世界に誇る古楽アンサンブル、バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) の毎年恒例彩の国さいたま芸術劇場公演。今年、彩の国で2年ぶり10回目となるJ. S. バッハ《マタイ受難曲》を演奏する。新約聖書の「マタイによる福音書」によるキリストの受難の物語を、バッハが音で描く《マタイ受難曲》は実にドラマティック。時代や信仰を超え、聴く者の心に深い祈りを呼び起こす真の名曲だ。そんな《マタイ受難曲》を今回、演奏だけでなく、BCJとして20年ぶりのレコーディングも当劇場で行う。

取材・文 ● 那須田 務 (音楽評論家) Photo ● ヒダキモコ

チケット販売中

バッハ・コレギウム・ジャパン  
J. S. バッハ《マタイ受難曲》

4.13(土)15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演]鈴木雅明(指揮)  
キャロリン・サンブソン、松井亜希(ソプラノ)  
ダミアン・ギヨン、クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)  
櫻田 亮(テノール・福音史家)  
谷口洋介(テノール)  
クリスティアン・イムラー(バス:イエス)、加未徹(バス)  
[曲目]J. S. バッハ:《マタイ受難曲》BWV 244

チケット(税込) 一般 正面席9,000円 メンバーズ 正面席8,100円

※バルコニー席・U-25は予定枚数終了  
※U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。  
※【関連レクチャー】4月6日開催 BCI音楽監督鈴木雅明による作品解説レクチャーは定員に達したため募集を締め切りました。ご了承ください。

### 《マタイ受難曲》を通して追体験するイエスの苦しみ

4月に彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールで鈴木雅明率いるバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) が、宗教音楽の究極の名作バッハの《マタイ受難曲》を演奏し、同時にCD録音を行う。世界的なバッハ演奏の解釈者として名高い鈴木雅明氏に、《マタイ受難曲》や今回の演奏会+録音プロジェクトについて話をうかがった。

— バッハの宗教音楽の中でも《マタイ受難曲》は特に人気が高いです。様々なホールの関係者によればチケットが完売するケースが多く、BCJもすでに世界中で80回くらい演奏されているそうですね。

鈴木 私たちが最初にこの曲を手掛けたのは1991年でした。その時、共演者のマックス・ファン・エグモント(オランダの名バス歌手)から「僕はもう300回くらい歌っている」と言われて、崩れ折れそうになりましたね。僕は初めてなのに(笑)。最初の録音は1999年ですが、今回のソプラノ歌手のキャロリン・サンブソンが(《マタイ受難曲》を)一度も録音したことがないというので、それじゃあやろうかと。メンバーも年齢と経験を積んできたので良い機会だと思いました。

— 20年ぶりの再録音になるわけですね。新約聖書を基にした《マタイ》はイエス・キリストが十字架にかけられる、とてもシリアスで悲劇的な内容です。日本の聴衆に好まれるのはなぜでしょう。

鈴木 日本人は悲観的なものが好きなのかもしれません。キリスト教のメッセージとしては、キリストが死んで3日後に復活することが大事なので完全な悲劇ではないのですが、この曲を聴いた人は、私たちの罪のためにイエスが死んでくれたという罪の意識と、それを悔い改め続けなければならないという心の重荷を抱きます。そこが日本人の波長に合っているのではないのでしょうか。でも(私たちはイエスの犠牲を通して救われるので)苦しみだけではなく精神的な甘みがあり、そこが大きな魅力になっていると思います。私たちはこの曲を通してイエスの苦しみを追体験するわけですが、感じ方は人それぞれ。そこがキリスト教徒に限らず、どんな宗教の人も惹かれる部分なのだと思います。

でも確かにシリアスですよ。私たち演奏者も大変です。リハーサルやコンサートの間ずっと、バッハがこの曲に託したメッセージを自分自身に問い続けるわけですから。もちろん長い曲ですから、音



バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)  
Bach Collegium Japan

鈴木雅明が世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して結成したオーケストラと合唱団。バッハの宗教作品を中心としたバロック音楽の理想的上演を目指し、日本国内のみならずイブツヒ・バッハ音楽祭、BBCプロムス、カーネギーホール、コンセルトヘボウ等、活発な演奏活動を展開。1995年から時系列順で取り組んできた「バッハ:教会カンタータ全曲シリーズ」が2013年2月に全曲演奏・録音を完結し、2014年「ヨーロッパのグラミー賞」と称されるエコー・クラシック賞エディトリアル・アチーブメント・オブ・ザ・イヤー部門を受賞。2013年度第45回サントリー音楽賞を鈴木雅明と共に受賞。2017年7月には「バッハ:世俗カンタータシリーズ」全曲演奏・録音が完了。2017年9月モーツァルト《ミサ曲 八短調》が権威ある英国の音楽賞グラモフォン賞を受賞。

楽的にも毎回演奏するたびに新しい発見があります。オーケストラも合唱もソリストも皆それぞれの課題を克服していかなければならない。そういうチャレンジ精神が要求される作品です。

### バッハが演奏した《マタイ受難曲》に近づけるため パイプ・オルガンを新製作

— 今回の公演の特徴は何でしょう？

鈴木 通奏低音(バロック音楽特有の伴奏用の低音声部)のオルガンです。私たちは通常、バッハの教会音楽の通奏低音を小さな箱型のポジティブ・オルガンで演奏していますが、実はバッハ自身は教会に備え付けのパイプ・オルガンを使っていました。それだとアンサンブル全体が包み込まれるような充実した響きが得られる。でも日本ではなかなか実現できません。

そこでBCJは、開管の長いパイプ群に2段鍵盤とペダルを持ち、そのうえ持ち運びも可能な特別仕立ての大きなオルガンをガルニエ・オルガン社に注文しました。ただ、バッハが2つの合唱やオルガンを含むオーケストラを教会でどう配置したかは分かっていません。今回はコンサートホールですから、このオルガンをステージの中心に据えて第1合唱の通奏低音を受け持たせ、第2合唱には小さなオルガンかチェンバロを用いると思います。

— 毎年キリスト教国では復活祭前の受難週\*にバッハの受難曲を聴く習慣がありますが、ドイツやオランダは特に盛んですね。

鈴木 ええ、特にオランダ人の《マタイ》好きは大変なものです。聖金曜日の2か月前から1か月前になると、オランダ中で200回以上も《マタイ受難曲》が演奏されます。まさにマタイ・フィーバー。特にオランダ・バッハ協会が拠点とするナルデンの教会は《マタイ》の聖地といってもいいくらいで、聖金曜日の演奏会は10年先のチケットも売り切れる。それが終わると復活祭。北ヨーロッパではクロッカスが咲き始めて春の訪れを知る。キリスト教の教理的な面もありますが、そういう季節感と音楽が一致するんですね。

— 春を告げる音楽でもあるわけですね。今回の公演はちょうど聖金曜日の1週間前。とても楽しみにしています。ありがとうございました。

\*受難週(聖週間)とは、十字架に磔にされたイエス・キリストの受難と死を悼み、悔悟する週で、復活祭前の四旬節最後の1週間にあたる。特にイエスが亡くなったことを記念する聖金曜日を含む、最後の3日間が重要。復活祭が移動祭日なので毎年異なる。今年の聖金曜日は4月19日。

## PLAY

さいたま新スト・シアター 世界最前線の演劇2

『第三世代』[ドイツ/イスラエル]

11.8(木)~18(日)

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)

登場人物は、舞台『第三世代』製作ワークショップのために集まった、ドイツ人4名、イスラエル在住ユダヤ人3名、イスラエル国籍のパレスチナ人3名。彼らの祖父母世代が体験したホロコースト、イスラエル建国、パレスチナ問題……彼らは、普通の会話であれば避けるようなテーマについて正面から語り合うが、各々の正義や立場がぶつかり、状況は混沌とし……。若者たちの葛藤に皮肉やユーモアが絡まる複雑な戯曲は、困難だらけの世界状況そのもの。過去の悲劇を、自分たちの世代がどう解決するのか。2時間舞台に出ずっぱりで懸命に格闘した彼らの姿こそが、我々の試みるべきことを示している気がした。



Photo©空川舞子

## DANCE

バンガラ・ダンス・シアター

『Spirit 2018』『I.B.I.S』

11.9(金)・10(土) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

オーストラリア先住民による伝統的な舞踊に、コンテンポラリー・ダンスを融合させたダンス・グループ、バンガラ・ダンス・シアターが埼玉初登場。アボリジナル、そしてトレス海峡諸島民の物語を語り継ぐ彼らは、儀式や風習を再現するだけでなく、現代社会との関係性もダンスで紡ぎ出す。設立以来のレパートリーをつないだ『Spirit 2018』は神秘的で神聖な雰囲気。『I.B.I.S』は島に暮らす人々が、立ち退きや気候変動といった問題に遭遇しつつも、陽気に生きる姿を描き出す。しなやかで俊敏なムーブメント、地面を踏み鳴らし膝を叩くワイルドな動きに目を奪われ、しばし大地のパワーを浴びた。



Photo©Bangarra Dance Theatre and Arnold Groeschel, 『I.B.I.S』より

## MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン

J. S. バッハ《クリスマス・オラトリオ》

11.24(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演、2018年は待降節の約1週間前にJ. S. バッハの《クリスマス・オラトリオ》を演奏した。ティンパニの晴やかな音で第1部第1曲が始まり、歓喜に満ちた音楽が紡がれ、各部とも崇高なコーラルで締めくくる。バッハの時代のクリスマス6日間に思いを馳せながら全6部の音楽に浸った。時に天使や羊飼いとなる合唱のハーモニー、名手ぞろいの管弦楽の合奏とソロはいつもながら素晴らしく、独唱は特にクリスティアン・イムラーの威厳ある歌唱が印象に残る。第4部第4曲、舞台上と舞台袖で呼び交わすソプラノ2人の歌声は、オーボエのエコーと相俟って特別な響きとなり、ホールは神聖な空気に包まれた。



Photo©加藤英弘

## MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第37回

トルヴェール・クワルテット(サクソフォン四重奏)

with 小柳美奈子(ピアノ)

12.7(金) 埼玉会館 大ホール

須川展也をはじめ日本の名サクソ奏者4人による四重奏団トルヴェール・クワルテットと、彼らといつも共演するピアニスト小柳美奈子による演奏会。サクソならではの情感豊かな音色を楽しんだ。美しい《G線上のアリア》のあと、ボザ《アンダンテとスケルツォ》は内声の響きが豊かで、軽快な掛け合いも見事。圧巻は、彼らのために作曲された石川亮太《ナポリ！ナポリ！ナポリ！》。《フニクリ・フニクラ》、《白鳥の湖》から《ナポリの踊り》、メンデルスゾーンの交響曲第4番《イタリア》などイタリアに関係する名曲が次々登場するメドレー大作で、各奏者が順にメロディを奏で、さらに4人で歌う“全員が主役”の演奏に客席は大いに沸いた。



Photo©加藤英弘

## EVENT

劇場体験ツアー

12.23(日・祝)~26(水) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

クリスマスで街が浮き立つ年末、彩の国さいたま芸術劇場の大ホールを、親子で巡るツアーが開催された。なかなか見られない舞台の裏側、そして楽屋にまで一行をご案内。スタッフが照明や効果音を操作する様子をのぞき、舞台が立体化されていく仕組みを目の前で体験した。『海辺のカフカ』で使われた精巧な動物の着ぐるみや、彩の国シェイクスピア・シリーズ『ヘンリー四世』の豪華な衣装もすぐ近くで見学でき、参加者も興奮！ 最後は、響くクリスマスソング、色とりどりの照明の中、全員で奈落からせり上がる感動的なフィナーレが用意されており、子どもたちも舞台の魔法を感じてくれたに違いない。



Photo©加藤英弘

## MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.36

レミ・ジュニエ ピアノ・リサイタル

1.12(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

ピアノ・エトワール・シリーズ2018年度の最後は、2013年エリザベト王妃国際コンクール第2位のレミ・ジュニエ。J. S. バッハ《カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」》の優美な演奏のあと、ベートーヴェン《熱情》ソナタは若いエネルギーがほとばしり、特に第3楽章コーダのスピード感はすさまじかった。ショパン《4つのマズルカ》作品17は洗練美が際立ち、ストラヴィンスキー《「ペトルーシュカ」からの3楽章》は強靱なタッチで奏でられ、人形の哀しみのドラマが見えるような好演だった。アンコールは2曲で終わりと思わせつつ、3曲めにJ. S. バッハ(ブゾーニ編)《シャコンヌ》。この日の白眉となる壮麗な演奏で締めくくった。



Photo©横田敦史

Event calendar table with columns for month (2月, 3月, 4月), day, and event details. Includes categories like PLAY, DANCE, MUSIC, and CINEMA/EVENT. Events include '光の庭プロムナード・コンサート', '彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』', and 'アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン デュオ・リサイタル'.

Ticket information section for PLAY, MUSIC, and DANCE. Includes event titles like 'アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン デュオ・リサイタル', '彩の国シネマスタジオ', and '『フォロ・ミー』'. Lists showtimes, venues, and prices.

次頁へ続く

MUSIC

販売中 [2公演セット券] [Vol.2-1回券]

2019年度大塚直哉レクチャー・コンサート  
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”

音楽ホール

[Vol.2]「フーガ」の楽しみと喜び

7.7(日)14:00

[出演] 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)、  
若松夏美 (パロック・ヴァイオリン)  
[曲目] J. S. バッハ《平均律クラヴィア曲集第1巻》より  
第11番から第17番、《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番》  
より第1・2楽章

[Vol.3] “平均律 wohltemperiert”の謎

2020年 2.2 (日) 14:00

[出演] 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)  
[曲目] J. S. バッハ《平均律クラヴィア曲集第1巻》より  
第18番から第24番

チケット(税込)

[2公演セット券] 全席指定 一般・メンバーズ 3,600円

[Vols.2-3] 各回 全席指定 一般・メンバーズ 2,000円

発売日 一般 3.3(日) メンバーズ 3.2(土)

埼玉会館ランタタイム・コンサート第39回  
イリーナ・メジュエワ (ピアノ)

6.14(金) 12:10 (終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

[曲目] ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66 (遺作)  
英雄ポロネーズ 作品53

ドビュッシー：《ベルガマスク組曲》より《月の光》 ほか  
チケット(税込) 全席指定 1,000円

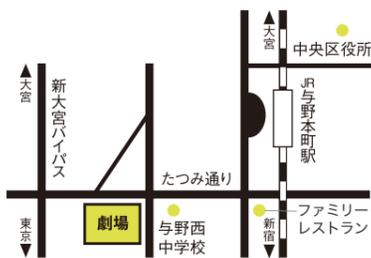
発売日 一般 3.16(土) メンバーズ 3.9(土)

佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団  
10.5(土) 14:00 音楽ホール

[出演] 佐藤俊介 (指揮/ヴァイオリン)、  
オランダ・バッハ協会管弦楽団

[曲目] J.S. バッハ：管弦楽組曲第1番 長調 BWV 1066  
ピゼンデル：ダンスの性格の模倣 ほか  
チケット(税込) 一般 正面席 6,000円 バルコニー席 5,000円  
U-25\* 3,000円/メンバーズ 正面席 5,400円

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1  
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

- 電車でのアクセス  
JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
- バスでのアクセス  
JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き  
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

チケット購入方法

インターネット



SAFオンラインチケット  
で、発売初日10:00から  
公演前日23:59まで  
受付いたします。



【PC・携帯共通】  
http://www.ticket.net.jp/saf/

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 > 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券  
または【コンビニ支払い】

※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)  
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 > 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券  
または【コンビニ支払い】

※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。  
※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代ほかに配送料  
(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売

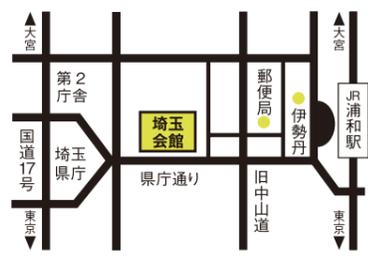
彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口 (10:00～19:00)  
で直接購入いただけます。電話予約したチケットの  
引取もできます(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。  
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ > 【口座引落】

一般 > 【現金】または  
【クレジットカード決済】

その場で  
チケットを  
お渡します。  
※手数料は  
かかりません。

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4  
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

- 電車でのアクセス  
JR宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン  
浦和駅(西口)下車 徒歩6分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共  
交通機関をご利用ください。

『ヘンリー五世』当日券の  
販売について

彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』  
(全20回)の当日券を全公演で販売いたします。販売  
方法は以下の2通りです。

- ①公演前日:SAFオンラインチケットWEB販売
- ②公演当日:窓口販売

《事前確認事項》

【枚数制限】

- ①公演前日:WEB販売…1公演2枚まで
  - ②公演当日:窓口販売…1公演1枚まで
- 【販売席種・枚数】各公演とも変動がございますので、ご  
案内いたしかねます。

【座席位置】補助席を中心に販売いたします。また、お  
席はお選びいただくことができません。  
・当日券料金は、前売券と同額になります。  
・未就学児のご入場はご遠慮ください。  
・2枚ご購入の場合、連席でない可能性がございます。  
予めご了承ください。

①公演前日:SAFオンラインチケットWEB販売

《チケット販売方法》

各公演ともにSAFオンラインチケットにて公演前日の17:00-  
18:00で先着順に販売をいたします。  
※お支払いは、メンバーズ会員は口座引落、一般のお客様はクレジット  
カードのみとなります。  
※予定枚数に達次第、受付終了となります。  
※お申込みには、事前にメンバーズ会員、一般のお客様ともにSAFオン  
ライン利用登録(無料)が必要です。  
※一般のお客様は、チケット代とは別に発券手数料 1枚120円がかか  
ります。  
詳細は財団HP (https://saf.or.jp)にてご確認ください。

②公演当日:窓口販売  
場所:彩の国さいたま芸術劇場 大ホール《当日券》窓口

各公演当日朝 10:00 に販売枚数を財団HP上にてお  
知らせします。

《チケット販売方法》

彩の国さいたま芸術劇場大ホール《当日券》窓口にて、各  
公演開演の1時間前に抽選方式で販売致します。  
※抽選方式での販売枚数は枚数程度となる見込みです。予めご了承ください。  
※彩の国さいたま芸術劇場 大ホール《当日券》窓口前に、各公演開  
演1時間前までにお集まりのお客様全員に抽選権がございます。  
※抽選はお一人様、1枚の番号札を引いていただきます。番号札1枚に  
つき、当日券1枚のご購入といたします。  
※待機スペースが限られているため、お時間に合わせてお越し下さいま  
すようお願い申し上げます。

[お問合わせ]彩の国さいたま芸術劇場  
0570-064-939 (休館日を除く10:00-19:00)  
公演詳細はP21

【参加者募集】

マーク・モリス・ダンス・グループによる  
パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム  
指導者向けワークショップ&シンポジウム

米国のコンテンポラリー・ダンスを牽引するマーク・モリス・ダンス・グループがパーキンソン病  
患者のために開発し、世界の著名バレエ団やダンス・カンパニーでも実践される〈Dance for  
PD®〉。パーキンソン病に限らず、高齢者等の身体の動きに制限のある方にもダンスを楽しん  
でいただくための手法を、創始メンバーでもある講師が指導するワークショップを開催します。

◎ワークショップ

[日時] 6月1日(土)・2日(日) 各日9:30～18:30 ※2日間連続  
[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場1  
[講師] デイヴィッド・レベンサール(Dance for PD®プログラム・ディレクター)他  
[対象] 3～5年程度のダンス指導経験(複数名を対象としたクラス指導の経験)がある方。  
※ジャンルは問いません。  
[受講料] 35,000円/早期割引(～2月28日)28,000円  
[定員] 25名

◎シンポジウム

デモンストレーションを交えてDance for PD®のメソッドや活動を紹介します。  
[日時] 5月31日(金)14:00～17:30(終了時間は予定)  
[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
[定員] 150名(入場無料・要事前申込・どなたでも参加できるプログラムです)  
※ワークショップ、シンポジウムともに英語(日本語通訳付き)・日本語にて行います。  
※受付・開場は各回開始30分前。

[申込方法] プログラム・お申し込みの詳細については、財団HP (https://www.saf.or.jp/) を  
ご覧ください。  
[お問合わせ] 彩の国さいたま芸術劇場 地域・五輪担当 048-858-5505  
[主催] マーク・モリス・ダンス・グループ  
[共催] 彩の国さいたま芸術劇場、スターダンサーズ・バレエ団  
第5回世界パーキンソン病学会 関連プログラム



Photo©Eddie Merritz

【開催決定】

2019年度 公文協東コース 松竹大歌舞伎  
松本幸四郎改め二代目松本白 鶴襲名披露  
市川染五郎改め十代目松本幸四郎襲名披露

今年の夏は、2018年に親子同時襲名が大きな話題となった高麗屋の二代目松本白  
鶴と十代目松本幸四郎の襲名披露公演が熊谷にやってきました! 詳細は次号に掲載  
予定です。

[公演日] 7月18日(木) ※昼1回公演  
[会場] 熊谷文化創造館さくらめいと太陽のホール  
[出演] 松本幸四郎改め二代目松本白 鶴  
市川染五郎改め十代目松本幸四郎 ほか



松本幸四郎

松本白鶴

『ジハード -Djihad-』が  
第11回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞しました!

さいたまナクスト・シアターθ (ゼロ) 世界最前線の演劇 1 『ジハード -Djihad-』(瀬  
戸山美咲氏演出、2018年6月23日～7月1日上演)において、イスマエル・サイディ  
氏(劇作家・映画監督・演出家・俳優)のフランス語戯曲の翻訳を手掛けた田ノ口誠  
悟氏(フランス演劇研究者)が「第11回小田島雄志・翻訳戯曲賞」を受賞しました。



授賞式でのスピーチの様子  
Photo©山本未紗子



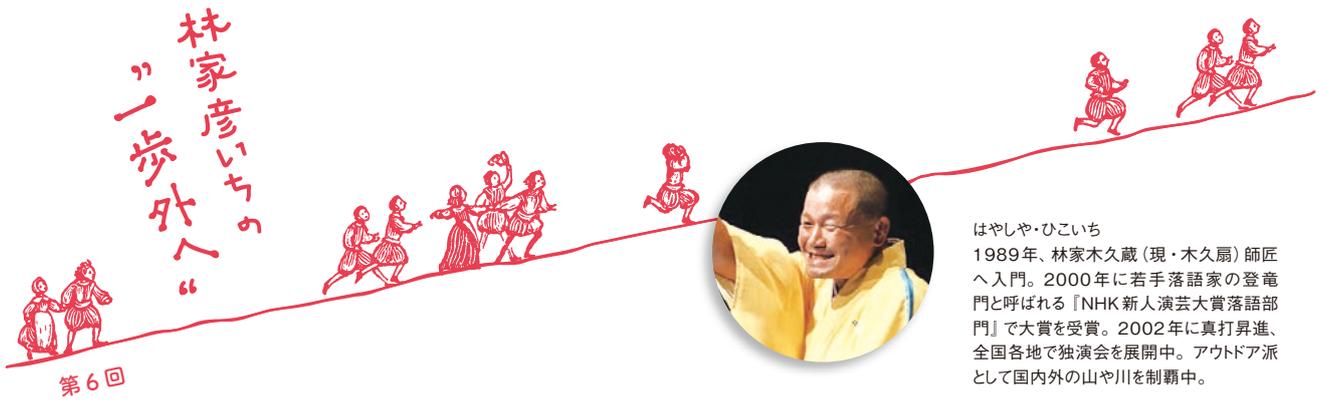
『ジハード -Djihad-』舞台  
Photo©宮川舞子

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。  
こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2019.1.15現在/一部未掲載)

- (株)与野フードセンター/ (株)亀屋/ (株)松本商会/ (有)香山壽夫建築研究所/ 埼玉新聞社/ 埼玉りそな銀行/ (株)パシフィックアートセンター
- (株)アサヒコミュニケーションズ/ FM NACK5/ カヤバ システム マシナリー(株)/ (株)タムロン/ (株)十万石ふくさや/ 森平舞台機構(株)
- 東芝エルティエエンジニアリング(株)/ 埼玉トヨタ自動車(株)/ 武蔵野銀行/ 浦和ロイヤルパインズホテル/ アルビーノ村/ 国際照明(株)/ 埼玉スバル
- 株佐伯紙工所/ (株)太陽商工/ (株)しまむら/ 不動開発(株)/ ビストロ やま/ 埼玉県信用金庫/ (株)栗原運輸/ 彩の国SPグループ/ (有)ブラネッツ/ (株)デサン
- セントラル自動車技研(株)/ 丸美屋食品工業(株)/ ボラスグループ/ ひがし歯科/ 埼玉トヨベツト(株)/ 公認会計士 宮原敏夫事務所/ (株)埼玉交通
- サイデン化学(株)/ アイル・コーポレーション(株)/ 旭ビル管理(株)/ ヤマハサウンドシステム(株)/ (株)エヌテックサービス/ (株)クリーン工房
- (株)つばめタクシー/ (株)サンワックス/ (株)綜合舞台/ (一財)さいたま住宅検査センター/ (株)国大グループホールディングス/ オーガスアリーナ(株)
- イープラス/ (医) 櫻会 林整形外科/ 埼玉県整形外科医会/ (医) 山粋会 山崎整形外科/ サンケイリビング新聞社/ (株)三和広告社/ ショッパー
- (株)松尾楽器商会/ JA埼玉県中央会/ 日本大学芸術学部/ (株)川口自動車交通/ (株)ホンダカーズ埼玉/ ファミリーマートあすまや/ (有)杉田電機
- 丸茂電機(株)/ 太平ビルサービス(株)さいたま支店/ (株)片岡食品/ (株)協栄/ (株)ヨコハマタイヤジャパン/ NTT東日本 埼玉事業部/ (株)平和自動車
- 光陽オリエントジャパン(株)/ さくら Music Office/ クワバラ・パンぷキン/ 東和アークス(株)/ テレビ埼玉/ 日本ピストンリング(株)/ 金井大道具(株)
- 国立大学法人 埼玉大学/ (株)七越製菓/ ビーンズ与野本町/ (株)コマーム/ (株)原一探偵事務所/ 川口信用金庫/ 青木信用金庫/ (株)和幸楽器/ 大栄不動産(株)
- 相川宗一/ (株)ハイデイ日高/ 浦和実業学園中学・高等学校/ 三井隆司/ 大和証券(株)/ AGS(株)/ ウォータースタンド(株)/ (株)ワイイーシーズンソリューションズ
- 白神久吉/ 医療法人青木会/ むさし証券/ 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)/ (株)シルバードンタルラボラトリー/ (株)エスポイント/ 藤信地所(株)
- 津田工業(株)/ (株)積田電業社/ ボートピア岡部・栗橋/ 中央税務会計事務所/ (株)東京コーン紙製作所/ トヨタカローラ埼玉(株)/ 放送大学埼玉学習センター
- GARO DAYHAPPY/ (株)有村紙工/ (医) たかだクリニック/ SMBC日興証券(株)/ (株)アステック/ (有)加藤工業/ (株)ジェイコムさいたま

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



第6回

林家彦いちの  
”一歩外へ“

はやしや・ひこいち  
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK 新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

## 予想がつかない 学校公演への冒険

文と写真 ● 林家彦いち

芸術鑑賞会で呼ばれる学校公演が、年々楽しくなっている。最近では学校ではなく、会館やホールでやることも多い。20代の頃は年齢も近いせいか、荒くれた生徒が最前列で「うゑーい！」と叫んでいると、こちらも「喜んでもらう」という気持ちはおろか、喧嘩腰だった。

時代もあるだろうが、だんだん生徒が変わってきた。仕事の多様なのか話芸家に興味を持ってくれる感じが伝わってくる。やんちゃな生徒も「このおじさん、いつも見る大人と違うなあ」と生き物として好奇心を持ってくれる様子も感じ取ることが出来る。思いがけないことも嬉しい。

「扇子と手拭いでどんなものでも食べることが出来るんだ、何か食べて欲しいものある？」と聞いたところ、ある女子高生が大声で「私のハート！」。ゾンビが心臓をえぐって食べる仕草をしたら大喜びしていた。正解は瞬間にしかない。

生徒に小咄をやってもらうこともある。「おかあさん、パンツ破けたよ」「またかい」という使い古されたあの小咄。これを生徒が演じると、どういうわけか場が弾けるのだ。ある中学生は緊張のあまり「おかあさんパンツが破けているよ」「またかい」。なんと！ おそらく歴史上初、おかあさんのパンツが破ける事態に。

そして、それは昨年突然起きた。やんちゃな工業高校で、紙切り※の林家正楽師匠がお題をもらったところ、大きな声



で「パンダ！」との声。即座に師匠がパンダを切って、スクリーンに写し出すと素直な生徒さんはどよめいた。南米のヤノマミ族がTVを見て文明を知った時のような反応である。舞台袖で見ているとわくわくする。続いてのお題を尋ねたところ、斜め後ろの男子が「僕もパンダ！」と。袖の僕はらのけぞった。初めての光景だ。同じもの!?

正楽師匠は動じず淡々とパンダを切る。「さて続いては？」と尋ねたら後方席からも「こっちもパンダ！」「パンダ！」

な、なんなんだ。正楽師匠はすれ違わざに「いやあ今日はパンダが多かったねえ。僕は高座へ向かった。

何が起きるかわからないドキドキを楽しむにはこちらの準備も必要。やはり我々、冒険家なのである。

※紙切り…寄席演芸のひとつ。一枚の紙をハサミで切って形を描く芸。寄席では即興でいただいたお題を作成する。



演劇担当 @Play\_SAF  
舞踊担当 @Dance\_SAF  
音楽担当 @Music\_SAF



Facebook 彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater  
埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram 埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツジャーナル通信 第79号(2月-3月)

平成31年2月1日発行(隔月1日発行)

発行人: 竹内文則

発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500